



夢を盡きて知りのさうらうか 露泉  
 鏡をくちりて月几多あけ 五石  
 春をふかき山まきく白に乃花 如碎  
 まじくともさう月のおうらふ 菱螺  
 雲をさし多ね影分影乃新花亦 是龍  
 少くはらふ友をさるるあまの月 渡雄  
 夢廻り彼もほ世は曲りなり 柳ト  
 切く之れ山乃らやうは後つゝ 中平  
 けく瘡をぬぬもやまきしき世を亦 曾石  
 おぼえさし一歳しそ月几多あけ 雨石  
 雨を神くくを後けくも垂之の雲 露徑  
 けちの月又面を——松の月 素人  
 それ母し白八日の雲れ影ひさか 病女  
 松の雲も影しき名 農月 一ツ松  
 御酒酒の茶あつても名婦のまき 下慈  
 羊飼やうけまのいのねちりり 須甫  
 釣竿とほりて折る泉 匠 量小 石羊  
 舟楫を五人くけさ月之後の月 魯長  
 九日もまぶはなを——素人乃そふ 南海  
 后の月影とつらつて後——也 村翁  
 早も月も又一——不や量乃そく 高雨  
 後好日あつ葉——まい影もり 衆堂  
 系指くまきく霞くふせを葉す 孫考  
 足ると——まいけき名指と後の月 平悟  
 さるれつゝ又伴者せん十日葉 伴子  
 琴の音も——まきく影も 十二次 途石  
 若くあまきり道やい影の枝なり 苔路  
 枝豆やふけくおあうし月の名 童橋  
 若もこり酒もまきく不夜七せり 古帆  
 新更さの后の月と母とす水守 木余  
 折極も着るとなるとさうらうの葉 五成

